



伝説の河童、出沒中!?
かつば
 県内外のものづくりイベントや、観光列車へのお手ぶりなどに、時々現れる春日川の河童さん。少し恥ずかしがり屋だそうです。町のPRの役に立ちたいと頑張っているんだとか。そんな河童さんから一言。
 「佐川産の超おいしい野菜が大好き!!でも、こっそり盗ったり、悪いことはしないので、見かけた時は、仲良くして下さい。そうそう!初夏の候、水辺の事故には、十分気をつけて下さいね。」

PICK UP CONTENTS

- P 2 特集 牧野のきほん
- P 4 高北病院
- P 5 かわせみからのおしらせ
- P 8 おしらせ
- P 14 ボタニカルニュース
- P 15 さかわ観光協会
- P 16 さかわ発明ラボNEWS
- P 18 地質館だより
- P 19 青山文庫だより
- P 20 としょかんだより
- P 21 さかわ学校だより-黒岩小学校-

まきのの 牧野のきほん

牧野富太郎博士とは

後に、「日本植物学の父」と称された植物学者・牧野富太郎博士が産声をあげたのは、1862年4月24日、かの坂本龍馬が土佐を脱藩して一ヶ月後のことでした。

土佐国高岡郡佐川村（現在の佐川町）に、父・佐平、母・久寿のもと誕生。生家は酒造業と雑貨商を営む裕福な商家でしたが、幼くして両親を亡くし、祖母の手で育てられました。

豊かな自然環境の中で育った富太郎少年は、幼い頃から植物に興味を持ち、小学校を2年で退学するも、植物採集をしたり、書物で植物の名前を覚えたりと、独学で植物学の研究を続けました。

23歳で上京。東京大学理学部植物学教室への出入りを特別に許され、以後東京と高知をたびたび行き来しながら植物分類学

の研究に打ち込みます。

26歳のとき、友人と『植物学雑誌』を創刊。その2年後、同誌上に共著で記載したヤマトグサは日本国内での最初の新種発表でした。

96年の生涯において収集した標本は約40万枚。新種や新品種など約1500種類以上の植物を命名し、日本植物分類学の基礎を築いた一人として知られています。

成功を収めてからも、牧野博士はたびたび帰郷し、故郷への思いを生涯持ち続けました。あまり知られてはいませんが、故郷への功績として1888年には、郷里の子どものための文化向上や科学教育の普及をはかるため、「佐川理学会」を創設。自らも指導にあたるほど、熱心に取り組みました。

佐川で見られる! 牧野博士命名の草木花



シハイスミレ
花期：3月～4月

セントウソウ
花期：2月～4月

オンツツジ
花期：4月

ジョウロウホトトギス
花期：9月下～10月中

サカワサイシン
花期：4月～6月

フクリンササユリ
花期：6月

タニジャコウソウ
花期：8月下旬～9月

アオテンナンショウ
花期：5月

最近、テレビや新聞などで
 牧野博士とよく見たり聞いたりするけれど…
 あまりよく知らないという方へ。
 牧野博士の基本の基を、簡単にお伝えします。